

2018年1月15日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 松本 悟

ネパール国スルヤビナヤック・ドゥリケル道路改修計画（追加調査）
（協力準備調査（有償））
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2017年12月4日（月）13:59～16:03
- ・場所：JICA本部（1階111会議室）
- ・ワーキンググループ委員：柴田委員、谷本委員、松本委員、米田委員
- ・議題：ネパール国スルヤビナヤック・ドゥリケル道路改修計画（追加調査）（協力準備調査（有償））に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配布資料：ネパール国スルヤビナヤック・ドゥリケル道路改修計画（追加調査）（協力準備調査（有償））スコーピング案 事前配布資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン（2010年4月）

全体会合（第87回委員会）

- ・日時：2018年1月15日（月）14:29～17:30
- ・場所：市ヶ谷ビル（600会議室）

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 既往協力準備調査のレビュー項目を明確にすること。特に、既往調査時にカットオフデートを定めた後、2015年のネパール地震などで事業対象地に移住したり、生計を営んだりしている人たちの状況を把握し、必要に応じて適切な対策を講じ、その結果をDFRに記述すること。

環境配慮（汚染対策、自然環境等）

2. トンネル前後のアクセス道路（アプローチ道路）建設では、樹木の伐採が発生することから、その伐採の規模をできるだけ詳細に調査し、その内容とともにそれに対する代償植林の計画内容についてもDFRに記述すること。
3. トンネル及びその前後のアクセス道路（アプローチ道路）の掘削によって発生する土砂や岩の処理が適切に行われるようにDFRに記述すること。
4. トンネル周辺の貯水池や小河川（灌漑用水などを含む）、井戸の水利用の実態を把握するとともに、水位のベースラインデータ・情報を取得し、影響が懸念される場合には、モニタリングを行うようDFRに記述すること。

社会配慮（住民移転、生活・生計、文化遺産、景観、少数民族、先住民族、労働環境等）

5. トンネルについては、構造体の維持管理に加えて、換気や排水の維持管理、トンネル内での車両故障・交通事故・車両火災などの緊急事態への対応策を今回の調査において検討し、その内容をDFRに記述すること。

ステークホルダー協議・情報公開

6. ROW宣言後に土地税を払って土地利用を継続している住民の状況を確認し、必要に応じて対応策をDFRに記述すること。

以 上